

5 歳児の学びのキュラム（幼児期の教育）の12 実践例

- ・収穫祭をしよう（10月）
- ・みんなで相談しよう　－なかよし発表会－（10月～12月）
- ・レストランごっこ（11月）
- ・焼き芋会をしよう（11月）
- ・こま回しをしよう（12月）
- ・郵便屋さんごっこ（1月）
- ・指人形劇（1月）
- ・いろいろな種をしぼろう（1月）
- ・最後まで頑張ろう（1月）
- ・お店やさんをしよう（2月）
- ・ドッジボール大会に向けて（2月）
- ・乗り物体験ツアー（2月）

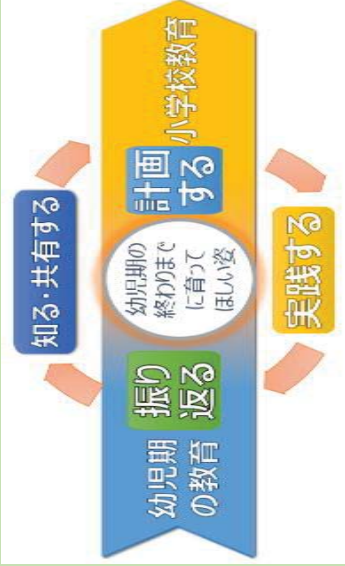


スタートカリキュラム（小学校教育）の11 実践例

- ・みんななかよし　－ともだちつくろう－（4月）
- ・すきなもの　なあに　－すきなものをたえよう－（4月）
- ・がっこうたんけんにいこう（4月）
- ・がっこうだいすき　－がっこうをたんけんしよう－（4月）
- ・わたしのがっこうどこどころ　－がっこうたんけんにしゅっぱつ－（4月）
- ・わたしのがっこうどこどころ　－きいて！おしえて！みつけたこと－（5月）
- ・わたしのつうがくろ（6月）
- ・まねっこあそび・かけっこあそびをしよう（6月）
- ・おもしろいあそびがいっぱい（7月）
- ・いろみずあそびをしよう（7月）
- ・だいすきなつ　－しゃぼんだまをとばそう－（7月）



保幼小接続のための体制作り



保幼小の接続のために、幼児期の教育では、幼児期に経験してきたことや学びが小学校教育にどのようなつながっていくのか、また、小学校教育では、幼児期に経験してきたことや学びをどう生かしたかを「幼児期の終わりに育ってほしい姿」の具体的な姿を通して、計画・実践・振り返りをしていくことが大切です。

その際に、保幼小の関係者が顔を合わせ、双方の教育の特徴や「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を中心に育成したい子供たちの姿を共有しながら、「知る・共有する」「計画する」「実践する」「振り返る」の4つの過程を通して、接続期のカリキュラムを作成していくことが望まれます。

接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン 5 歳児の学びのキュラム スタートカリキュラム

学習指導要領等の改訂に伴い、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けることができるよう、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続が求められています。

千葉県教育委員会では、幼児教育施設と小学校の職員がお互いの活動を理解し、連携を進められるように冊子を平成31年3月に作成しました。

実践事例を参考に学校現場
等で活用可能

幼児教育施設や小学校の
活動がわかる



接続期のカリキュラムとは

接続期のカリキュラムは、5 歳児の学びのキュラム（幼児期の教育）とスタートカリキュラム（小学校教育）で構成し、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」でつないでいきます。

5 歳児の学びのキュラムは、遊びを通しての総合的な指導で「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を方向目標としています。

スタートカリキュラムは、生活科を中心とした総合的・関連的な指導で主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出すため、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を発揮することができるようにすることが大切です。

千葉県総合教育センターのWeb サイトからダウンロード可能

５歳児の学びのカリキュラム【幼児期の教育】（１０月～３月）

５歳児の学びのカリキュラムの特徴

- ・幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標としたもの
- ・遊びや生活の中で児方・考え方を育む教育
- ・幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラムに基づいた展開

「子供がこれからどのように育つか」の視点で小学校教育とのつながりを見据え、「目の前の子供たちとどのように関わればよいか」を考え、実践する。

学 び の 芽 生 え

- ・楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- ・遊びを中心として、頭も心も体も動かし、様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- ・日常生活の中で様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。

【５領域】

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

- 【幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱】
- ・知識及び技能の基礎
 - ・思考力、判断力、表現力等の基礎
 - ・学びに向かう力、人間性等

遊びを通しての総合的な指導

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 育 成
- 健康な心と体
 - 自立心
 - 協同性
 - 道徳性・規範意識の芽生え
 - 社会生活との関わり
 - 思考力の芽生え
 - 自然との関わり・生命尊重
 - 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - 言葉による伝え合い
 - 豊かな感性と表現

- 共 有

- 発 揮

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育み、共有し、発揮できるようにしましょう。

- ・各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- ・主に授業の中で、話したり聞いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。

自 覚 的 な 学 び

- ・学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に計画的に学んでいく。
- ・各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- ・主に授業の中で、話したり聞いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。

- 【育成を目指す資質・能力の三つの柱】
- ・知識及び技能
 - ・思考力、判断力、表現力等
 - ・学びに向かう力、人間性等

生活科を中心とした合科的・関連的な指導

- 国語
- 算数
- 音楽
- 生活
- 図画工作
- 体育
- 特別活動
- 特別の教科 道徳



幼児期後半における遊びのプロセス

遊びの創出→遊びへの没頭→遊びの繰り返し→遊びの振り返り

作成の工夫と配慮

- ・１日の時間の工夫
- ・活動の工夫
- ・人間関係についての配慮
- ・家庭や小学校との関係
- ・きまりへの適応と安全への配慮
- ・小学校教育に向けての配慮

幼児期に経験する遊びは、小学校の学びの基礎

ゲーム



読み聞かせ



歌を歌う



制作活動



飼 育



草花の世話



マラソン



ボール遊び



鉄棒遊び



リレー



生活の学びのプロセス

「やってみたいこと」を自分で見出す。→どうしたらできるかを考える。→協力してやり遂げる。→振り返り

作成の工夫と配慮

- ・時間割の工夫
- ・体験や活動を取り入れた授業の工夫
- ・人間関係作りへの配慮
- ・家庭や幼児教育施設等との連携
- ・きまりへの適応と安全への配慮
- ・幼児期の経験や学びを生かす配慮

幼児期に経験してきたことを生かす